

平成30年度

事業報告書

社会福祉法人 流山市社会福祉協議会

平成30年度社会福祉法人流山市社会福祉協議会事業報告

平成30年度は、「第2次流山市地域福祉活動計画」と「流山市社会福祉協議会活動強化計画」の2年目として各種事業を展開しました。

児童福祉については、「子育てサロン」を共催している流山市民生委員児童委員協議会と流山市生涯学習センター、そして当会の三者で開催月（2か月に1度）毎に話し合いを行い、参加者がスタッフであることを認識できるよう揃いのエプロンをつくるなど、その運営の充実を図りました。

働く保護者のための育児支援でもある学童クラブについては、当会が運営する「あすなろ学童クラブ」で従来の3クラスから5クラスへ受け皿の拡大を図りました。

また、ひまわり学童クラブでは、定員を上回った応募に対して鱈ヶ崎小学校の和室を借用し、対応しました。

歳末たすけあいの募金や寄付された食品を配分するなどして、増え続ける「子ども食堂」の活動を支援しました。

高齢者福祉については、地域の方々に介護に関心を持っていただけるよう江戸川学園おおたかの森専門学校での介護イベントに初めて当会のブースを設けました。

高齢者デイサービスと、身体障害者デイサービスのご利用者の安全と快適な送迎のため民間企業から福祉車両を寄贈いただきました。

さわやかクラブ流山（流山市老人クラブ連合会）は創立50周年を迎え、記念大会を開催し、会員の拡充と活動の充実を呼び掛けました。

障害者福祉については、これまでケアセンターだけで行っていた車いすの貸し出しサービスを、当会が管理運営する「流山福祉会館」で土・日曜日、祝日、夜間など取り扱い時間を拡大し、利用者の利便向上に寄与しました。

障害者の働く場である「流山こまぎ園」は、開所10周年を迎え、記念式典を開催したのをはじめ、敷地内に倉庫を新設し、記録的な猛暑に対応するため壁掛け式の扇風機やシャワールームを設置するなど利用者の作業環境の向上を図りました。

生活困窮者の支援については、「フードバンクちば」が主催するフードドライブに初めて参加したのを始め、独自事業として続けている「ミニフードバンク」を通じて、家庭で眠っている食品の募集を呼び掛け、生活に困窮されている方々に役立てていただきました。

いつ起こるかわからない災害に備え、職員を対象に、夜間に予告せずに非常時伝達訓練を行ったのをはじめ、西日本豪雨の被災地に職員を派遣し、その体験を自主職員研修会で共有するなど職員の意識改革を図りました。

なお、福祉団体などの協力を得て、職員手づくりの「ケアセンターまつり」を初めて開催し、流山市ケアセンターの役割や流山市社会福祉協議会活動への理解を深めました。

1 社会福祉事業

(1) 法人運営

・組織の運営

○理事会

期 日	主な内容
平成30年 5月18日	<平成30年第2回> 平成29年度事業報告・決算の認定について 他
8月23日	<平成30年第3回> 職員就業規則の一部を改正する規則の制定について、職員の再雇用に関する規程の制定について 他
12月13日	<平成30年第4回> 平成30年度社会福祉事業区分及び公益事業区分補正予算について 他
平成31年 3月18日	<平成31年第1回> 平成30年度社会福祉事業区分及び公益事業区分補正予算について 平成31年度事業計画・予算について 他

○評議員選任・解任委員会

期 日	主な内容
平成30年 5月21日	<平成30年第1回> 評議員の承認について

○評議員会

期 日	主な内容
平成30年 6月 4日	<平成30年第2回> 平成28年度事業報告・決算の認定について他
12月13日	<平成30年第3回> 平成30年度社会福祉事業区分及び公益事業区分補正予算について
平成31年 3月18日	<平成31年第1回> 平成30年度社会福祉事業区分及び公益事業区分補正予算について 平成31年度事業計画・予算について

○三役会

期 日	主な内容
平成30年 5月16日	<平成30年第1回> 平成29年度事業報告及び決算について 他

○委員会等

①広報・高齢者対策委員会	平成30年6月1日、8月31日、平成31年3月1日
②児童・障害者対策委員会	平成30年10月2日
③歳末たすけあい配分委員会	平成30年12月10日、平成31年3月13日
④生活福祉資金等貸付調査委員会	平成31年1月24日
⑤心配ごと相談所運営会議	平成30年5月24日、7月27日、10月31日、 平成31年2月22日

○監査

期 日	主な内容
平成30年 5月11日	平成29年度監査
10月16日	平成30年度中間監査

・組織体制基盤の強化

○研修

市民のニーズに的確に応え、優れた福祉サービスを提供していくために、職員一人ひとりが役割に応じた能力を備えられるようにするとともに、社会福祉協議会のより一層の組織力の強化を図ることを目的に実施している。

平成30年度は、流山市社会福祉協議会活動強化計画にも位置付けられている職員が自ら主体的にボランティア活動などに取り組み成長を促す仕組み作りに積極的に取り組んで行くことから、職員が自主的に開催し、災害に対する当会災害ボランティアセンターの役割について、理解と認識を深めた。

期 日	主な内容
平成30年11月26日	「災害ボランティアセンターについて」 7月豪雨災害における災害ボランティアセンター運営支援 (広島市安芸区) ブロック派遣報告について

・ 会員募集

社協会費は、さまざまな福祉関係団体への助成、福祉教育やボランティア活動の推進、地区社会福祉協議会、高齢者の福祉対策費等に充てられ、「誰もが自分らしく安心して暮らせるまちづくり」を目指した本会の事業を進める上での大切な財源となっている。

また、社協会員になることによって、一人ひとりが「地域福祉」を自らの活動として受け止め、地域福祉活動に間接的に参加していただくという意味合いも持っている。

社協会費について、普通会员は全世帯の皆様にお願ひし、社協の社会福祉事業推進活動にご理解ご賛同いただける個人や法人の皆様には、賛助会員、法人会員としてご協力をお願いした。

○ 協力員会議

市内の各自治会よりご推薦をいただいた協力員を対象に、協力員会議を開催し、社協活動（地域福祉の推進活動、生活困窮者への貸付、高齢者・障害者等を支えるための福祉サービス事業、ボランティア活動の推進事業等）の資金の一部に充てられる会費と公的施策のみで支えられない分野を支援するための民間福祉事業の財源の確保や、募金活動を通じての住民相互の助け合い精神の普及を目的とした赤い羽根募金、地域住民や民生委員・児童委員、社会福祉施設等の関係機関や団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に援護を必要とする世帯等への支援や地域福祉活動推進・強化のための歳末たすけあい募金の取りまとめについて依頼した。

なお、30年度は2日間の開催のうち、平日と休日にそれぞれ行い、市民のニーズに応じて開催曜日を改善したところ、協力員176人中121人が参加し、前年度よりも8人増加した。

第1回協力員会議

期 日	場 所	時 間	出席者数	
			(カッコ内は昨年度出席者数)	
平成30年 6月22日(金)	地域福祉センター	10:00	32人	(35人)
	初石公民館	14:00	32人	(16人)
6月23日(土)	北部公民館	10:00	41人	(33人)
	東部公民館	14:00	16人	(29人)
<会議事項> 1) 社会福祉協議会の主な活動について 2) 社会福祉協議会会費及び共同募金運動について				

第2回協力員会議

期 日	場 所	出席者数
平成30年11月16日(金)	生涯学習センター	85人
<p><会議事項></p> <p>1) 記念講演会 「超高齢化時代における地域づくり～健康・長寿の推進をめざして～」 講師 流山市健康福祉部 部長 早川 仁 氏</p> <p>2) 歳末たすけあい募金運動の依頼について</p> <p>3) その他</p>		

(2) 広報啓発

- ① 広報紙「ながれやま福祉だより」の発行
年4回(6・9・1・3月)
(1回あたり55,600部、新聞折り込みにより全世帯配布)
- ② ホームページの運営(バナー広告4社)
- ③ パンフレットの発行 7,000部
(世帯回覧のほか、公共施設の窓口等で配布。)
- ④ SNSによる情報発信(ツイッター及びフェイスブック)
- ⑤ その他

昨年に引き続き、こどもの貧困や高齢社会をテーマにした映画及びドラマの制作に協力した。また、障害者差別解消法が施行された平成28年度から始めた「バリアフリー演劇鑑賞会」を、3回目となる今年度は平成30年7月21日に流山市文化会館において、流山市教育委員会との共催で開催した。

(3) 福祉活動

・福祉団体の支援及び連携、協働

地域福祉の充実と向上を図ることを目的とした福祉関係団体(柏地区保護司会流山支部、東葛飾地区更生保護女性会、流山市原爆被爆者の会、流山市身体障害者福祉会、流山市視覚障害者協会、精神障害者家族会よつば会)等の活動に対し、その運営及び事業活動への助成を行うことにより、地域福祉の推進を図った。

流山市民生委員児童委員協議会や流山市老人クラブ連合会、流山市シルバーサービス事業者連絡会の事務局を運営し、各種事業の企画・運営や関係機関との連絡調整等に努めた。

また、今年度は、さわやかクラブ流山（流山市老人クラブ連合会）が創立50周年を迎え、平成30年6月28日に流山市文化会館で記念大会を開催し、功績者への感謝状贈呈のほか会員の拡充と活動の充実を呼び掛けた。

（４）地域福祉推進

誰もが自分らしく安心して暮らせるまちづくりの実現を目指し、小・中学校のご協力をいただき、啓発用のポスターを作成し、市内公共施設や自治会掲示板に掲示した。また、11月の地域ぐるみ福祉活動推進月間には、流鉄株式会社にご協力をいただき、流鉄流山線の車内にも啓発用ポスターを掲示したが、同時期は児童虐待防止推進月間でもあり、民生委員児童委員協議会で実施している児童虐待防止標語ポスターもあわせて掲示し、広く住民の皆様には福祉を啓発するとともに、地域福祉活動の中核を担う地区社会福祉協議会活動の支援や地域ぐるみ福祉活動の推進に努めた。

また、平成31年3月に、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、赤十字奉仕団等福祉関係団体との地域懇談会を開催し、2年目を迎えた第2次流山市地域福祉活動計画の進捗状況について報告するとともに、地域課題への対応について意見交換を行った。

・流山市地域福祉活動計画の推進

地域懇談会の開催

（市内4包括支援センター圏域で、下記のとおり開催した。）

期 日	場 所	出席者数
平成31年3月 7日	東部公民館	13人
3月11日	おおたかの森センター	14人
3月15日	流山市地域福祉センター	14人
	西深井福祉会館	12人
<内容> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次流山市地域福祉活動計画の進捗状況について ・地域課題等についての意見交換 		

・ミニフードバンク事業（善意の受入・払出）

社会福祉協議会では、善意の受入・払出として住民の皆様からの善意で提供いただいた物品を、支援を必要とされている方に提供した。

お寄せいただいた物品のうち、特に、食料品（お米・レトルト食品など）や日用品（洗剤・ハンドソープなど）については、ミニフードバンク事業として、一時的に生活に困窮している方や、市内の子ども食堂へ提供した。

また、この事業は生活困窮者自立支援事業自立相談機関と連携し、対応している。

さらに、平成30年度からは、フードバンクちばのフードドライブ（食品回収）設置窓口として、広く住民の方々に協力を呼び掛け第20回、第21回のフードドライブに協力し、住民の皆様からご提供いただいた食料品をフードバンクちばに届けた。

善意の受入・払出実績

品名	受入件数	払出件数
食料品	23件	44件
日用品	22件	7件
介護用品	22件	10件
その他	10件	6件
合計	77件	67件

フードドライブ実績

回数	期間	受入件数
第20回	平成30年9月18日～10月31日	2件
第21回	平成31年1月15日～12月28日	2件

・子育てサロンの開催

生涯学習センター・民生委員児童委員協議会・社会福祉協議会の三者共催で、乳幼児をもつ親子に交流を深めていただくとともに、日々の子育ての中で抱く様々な悩みや不安の解消を図ることを目的として、生涯学習センターを会場に子育てサロン「サンサン」を隔月開催した。

期 日	内 容	参加者数
平成30年 5月29日	絵本読み聞かせ、手遊び、ティータイム 他	14組28名
平成30年 7月17日	絵本読み聞かせ、手遊び、ティータイム 他	12組24名
平成30年 9月26日	絵本読み聞かせ、手遊び、ティータイム 他	8組16名
平成30年11月13日	保健師による講座「健康と病気予防について」 ペープサート、手遊び、ティータイム 他	10組20名
平成31年 1月23日	節分イベント、手遊び、ペープサート、ヨガ体 操、ティータイム 他	12組24名

・ 地区社協活動の推進

○地区社会福祉協議会代表者会議の開催

期 日	場 所	内 容
平成31年3月20日	地域福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度地区社会福祉協議会補助金について ・行政からの伝達事項他

・ 福祉教育活動の支援

○地域ぐるみ福祉事業の推進

市民まつり（福祉会場）や市内全域において、啓発活動等を実施し、福祉への意識の高揚に努めた。

期 日	内 容
平成30年10月2日	○児童・障害者対策委員会 (地域ぐるみ福祉のまちづくり推進ポスター及び推進標語の審査) 応募数 ポスター 小学生17点 中学生18点 標 語 小学生43点 中学生20点
11月4日	○市民まつり（福祉会場）における啓発活動
11月1日～12月末	○地域ぐるみ福祉のまちづくり推進ポスター及び標語の最優秀賞作品を掲載したポスターを市内公共施設や自治会掲示板、流鉄流山線車内に掲示し、福祉の啓発をした。

○夏休みビデオ上映会

流山市道路管理課との共催で、夏休み期間中の事故や犯罪の防止を図るとともに、児童福祉への啓発を図ることを目的に、ビデオ上映会と自転車の乗り方についての指導を実施した。

期 日	場 所	時 間	参加児童数	
平成30年8月6日	そよかぜ学童クラブ	10:00～11:30	25人	70人
8月9日	たけの子ルーム	10:00～11:30	45人	

(5) ボランティアセンター

・災害時の対応

「流山市社会福祉協議会災害時対応マニュアル」に基づく、災害ボランティアの養成や、防災意識を高めボランティア間の連携を図るためのグループワーク研修を実施した。また、各種防災イベントへ積極的に参加し、災害ボランティアセンターの紹介や登録ボランティア・グループと連携して車いす体験等の災害時要配慮者体験を行い、災害時に備えた各種団体等との連携・協力体制の強化を図った。

なお、いつ起こるか分からない災害に備え、職員間の非常時伝達訓練を今年度は2回、予告せずに実施し、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）災害では、被災地（広島県広島市安芸区）の災害ボランティアセンターの運営支援のため、千葉県チームの一員として職員を派遣し、その体験を研修会で他の職員へ還元することで防災意識の向上を図った。

（派遣期間：平成30年9月15日～平成30年9月21日）

○防災に係る取り組み

期 日	場 所	内 容
平成30年 8月26日	長崎小学校	平成30年度流山市総合防災訓練
12月 8日	流山おおたかの森駅南口 広場	おおたかの森防災フェア2018 実行委員会：9月28日、10月 24日、11月21日
6月12日	中央公民館	避難所運営ゲーム(HUG)シミュ レーション
7月13日	おおたかの森センター	
平成31年 2月 9日	流山おおたかの森小・中学 校ランチルーム	

○災害ボランティア養成講座の開催

講座名等	期 日	内 容	参加者数
災害ボランティア 入門講座 ～災害時に活動する ためには～	平成30年 8月31日	<p><「第1部」ワークショップ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害から1～2日が経過。地域の困りごとを考える <p><「第2部」講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が発生したら皆さんの役割は？ 社協の役割は？ <p>【講師】公益社団法人SL災害ボランティアネットワーク 常務理事 天寺 純香 氏</p>	30人
災害ボランティア リーダー講座	10月26日	<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・流山市に想定される災害について <p>【講師】流山市市民生活部防災危機管理課 課長 鶴巻 浩二 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流山市災害ボランティアセンターについて <p>【説明】流山市ボランティアセンター事務局</p> <p><講義・演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害シミュレーション ～クロスロードゲームを通して学ぶ～ <p>【講師】公益社団法人SL災害ボランティアネットワーク千葉県ネットワーク 流山・野田ネット 岡部 英雄 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応急救護について ～AEDの使用方法、三角巾と応用手当～ <p>【講師】日本赤十字社千葉県支部 流山市地区奉仕団 埋金 玲子 氏 一尾 孝子 氏 海老原智子 氏 武田久美子 氏 久保美智子 氏</p>	15人
災害ボランティア リーダーフォロー アップ研修	平成31年 3月27日	<p><演習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練 ・グループワーク 「避難所運営ゲームを通じて避難所運営についての理解と防災意識を高めると共に、災害ボランティアリーダー間の連携を図る」 <p>【参加・進行協力】 災害ボランティアリーダー</p>	32人

・ボランティアの活動支援

各種ボランティア講座の開催や、市民への情報の提供及び要請に伴うボランティア活動の調整や器材の貸し出し等を行い、ボランティアの育成と活動支援に努めるとともに、ボランティア・グループ、関係機関・団体との連絡調整を密にし、ボランティア活動の普及と推進に努めた。

① ボランティア養成講座の開催

講座名等	期 日	内 容	参加者数
ボランティア入門講座	平成31年 3月29日	<講義> ・ボランティアをはじめよう ～人にやさしく自分も楽しく～ 【講師】 江戸川学園おおたかの森専門学校 星野 隆氏 <発表> ・ボランティアによる活動紹介・体験談 【参加者】 流山おもちゃ病院 スカイドックセラピー流山 安来節保存会流山支部 いろいろやハーモニー、地域生活 支援センターすみれの個人ボラン ティア	15人

② 登録ボランティアの活動状況

年間総活動人数（延べ） 30,802人

ボランティアセンターの要請に基づく活動人数 3,588人

※施設ボランティア（26施設）含む。

区分		高齢者	身体 障害者	知的・精神 障害者	児童	その他	合 計
個人	延べ人数	1,126人	392人	531人	26人	35人	2,110人
グループ	回 数	316回	4回	1回	4回	25回	350回
	延べ人数	1,298人	28人	7人	21人	124人	1,478人
合 計		2,424人	420人	538人	47人	159人	3,588人

○登録ボランティア人数

個人 765人

グループ加入者数 1,426人（67グループ） 計 2,191人

③ 行事への参加

事業名	期 日	場 所	内 容
平成30年度障害者週間展示事業	平成30年 12月3日～9日	イトーヨーカドー 流山店オープンス ペース	障害者支援ボランティアの紹介パネルの展示

④ 関係団体との連携・協力

平成30年度西深井地域生活支援センター すみれ運営委員会	平成30年5月9日
流山市地域自立支援協議会地域生活支援 部会	平成30年4月26日、6月1日、 7月26日、10月30日、12月18日、 平成31年2月5日、2月14日、 3月6日、3月19日

⑤ 器材の貸出状況

機材名	貸出回数
ワイヤレスマイクセット（ハンド・ピン）・ライト	146回
高齢者疑似体験セット	20回
プロジェクター	13回
避難所運営ゲーム（HUG）	13回
かき氷機	10回
アイマスク・点字器・白杖	3回
その他（スクリーン等）	8回
合 計	213回

・ 介護支援サポーター事業の推進

流山市より介護支援サポーター事業を受託し、高齢者の社会参加活動を通じた介護予防と地域貢献を推進するため、事業説明会や介護支援サポーター養成講座、フォローアップ講座、広報紙の発行等を行い、サポーター活動の普及と推進に努めた。

①介護支援サポーター事業説明会

回数	期 日	場 所	内 容	参加者数	
1	平成30年 4月13日	地域福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援サポーター事業の概要について ・サポーター活動開始までの流れについて ・活動実績スタンプの活用について 等	4人	12人
2	8月16日	南流山センター		2人	
3	10月19日	初石公民館		2人	
4	12月11日	北部公民館		4人	

②介護支援サポーター養成講座

回数	期 日	場 所	内 容	参加者数
1	平成30年 5月25日	地域福祉センター	<説明> 「介護支援サポーター事業について」 ・制度概要、講座～登録～活動までの流れ <講義・実習> 「介護支援サポーター活動での心がけ」	7人
2	7月24日	東部公民館	・サポーター活動の心構え ・利用者との接し方～コミュニケーション・傾聴について～車いす試乗・介助体験～ <講義>	6人
3	9月6日	南流山センター	「活動先となる介護保険施設等の理解」 ～介護保険制度の理解について～ <講義> 「要介護認定者の心と体を理解する」 ～高齢者特有の傷病について～ <講義>	10人
4	11月16日	初石公民館	「認知症への理解と対応について」 ～認知症サポーター養成講座～ <発表・面談> 『活動スタートに向けて』 ・受入施設職員から自施設における活動紹介 ・サポーターから自らの活動紹介	10人

5	平成31年 1月15日	北部公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・受入施設職員との個別面談 【講師】 <ul style="list-style-type: none"> ・江戸川学園おおたかの森専門学校 ・流山市介護支援課 ・地域包括支援センター ・受入施設職員 ・サポーター 	16人
合 計				49人

③介護支援サポーターフォローアップ講座

期別	期 日	場 所	内 容	参加者数
前期	平成30年 6月14日	中央公民館	<講演> 「認知症という疾患や接し方について ～医師の立場から～」 【講師】 医療法人社団愛友会千葉愛友会記念 病院	37人
	6月28日	初石公民館	<サポーターミニ交流会> ～活動の情報交換や活動開始のヒン トを見つけよう～	20人
後期	11月9日	中央公民館	<講義> 「介護支援サポーターの意義・心構 え」 【講師】 江戸川学園おおたかの森専門学校	14人
	11月16日	中央公民館	<座談会> ～グループ発表・事例を通して考える ～	22人
合 計				93人

④介護支援サポーター活動状況

登録者	633人
活動者数	228人
延べ参加者数	7,803人

※ 受入施設数 71施設

(6) 相談事業

・心配ごと相談所の開設

流山市ケアセンターにおいて、心配ごと相談所を毎週水曜日（午後1時から3時30分まで）に開設し、市民の心配ごと・悩みごとの相談に民生委員・児童委員（16人）が2人体制で応じ、その解消に努めた。

○利用状況

開設日数	51日
相談者延べ人数	102人

○相談内容内訳

相談内容	件数	相談内容	件数
生計	6件	財産	5件
年金	0件	事故	0件
職業・生業	3件	児童福祉・母子保健	0件
住宅	3件	教育・青少年	0件
家族	8件	障害者福祉	0件
結婚	0件	母子福祉・父子福祉	0件
離婚	1件	高齢者福祉	1件
健康・保健・衛生	4件	苦情	1件
医療	4件	その他	2件
人権・法律	3件	合計	41件

・成年後見相談所の開設

成年後見に関する相談所を開設し、高齢や障害などによって判断能力に不安がある方を法的に支援する制度についての疑問や利用法等の相談に応じた。

開設日数	平成30年8月27日、10月23日、 平成31年1月25日、3月18日（以上4回） 平成31年3月25日（追加開催）	相談者数	12名
------	--	------	-----

3月18日の相談会には、相談希望者が定員（1開設につき3名）を早々に上回ったため、3月25日に追加で相談日を設けニーズに応えた。

(7) 福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

判断能力が十分でないため、財産管理や福祉サービスの利用手続きが独力では難しい高齢者や障害者等に対して、日常生活自立支援事業の利用に関する相談、訪問調査、県契約締結審査会へ審査依頼、契約、実際の支援活動を実施した。

また、流山市社協パンフレットやホームページ、「ながれやま福祉だより」に事業内容を掲載し、民生委員や地区社会福祉協議会、たすけあい団体等に出向き、出前講座を開催するなど普及啓発に努めた。

さらに、市内の関係機関（行政・地域包括支援センター・民生委員等）や、千葉県後見支援センターの協力により、関係機関連絡会議を開催し、高齢者・障害者の権利擁護に係る機関の相互連携及び本事業の円滑な推進を図るための協議を行った。

○相談者内訳

高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
12人	3人	4人	7人	26人

○相談内容内訳

相談内容	件数
日常的な金銭の管理等に関する事	16件
事業への問い合わせ	5件
福祉サービスの手続きなど	1件
成年後見制度に関する事	1件
虐待等に関する事	1件
今後の生活設計等	1件

○相談・訪問調査等（相談継続ケース）

・相談・訪問調査等延べ件数

高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計	うち 訪問調査件数
53件	45件	6件	1件	105件	15件

・利用者数 11人（年度当初8人利用 新規契約3人 終了2人）

・支援回数・時間（利用者11人の延べ支援回数・時間）

支援回数：105回

支援時間：148.5時間

○支援内容

①福祉サービス利用援助（福祉サービス利用手続きの援助）	11人
②財産管理サービス（預貯金の引出しや公共料金等の支払等の援助）	11人
③財産保全サービス（通帳・実印・不動産権利証等の貸金庫での保管）	2人

○生活支援員（利用者宅を定期訪問して上記①・②の支援を行う）

現任者：8人（うち平成30年度新任1人）

登録者：3人（うち平成30年度新規登録1人）

退任者：2人

○生活支援員連絡会議

期 日	場 所	内 容
平成31年3月26日	ケアセンター	研修「支援終了事例から学ぶ」ほか

○関係機関連絡会議

期 日	場 所	内 容
平成31年2月25日	ケアセンター	「平成30年度の日常生活自立支援事業に関する相談・契約等の状況について」ほか

○出前講座

平成30年5月 6日	東部地区民生委員児童委員協議会
5月22日	向小金地区社会福祉協議会（いきいきサロン）
6月19日	
7月17日	
10月18日	ちよい困つなぐ会

○広報啓発

- ・「認知症安心ガイドブック」（流山市介護支援課発行）

18頁に掲載

- ・流山市おうち療養情報誌 第5号「もっと安心 ずっと安心流山」

2頁に掲載

(8) 共同募金配分金

高齢者福祉対策	<ul style="list-style-type: none"> ひとり暮らし高齢者日帰り交流会 平成31年3月12日、成田市（成田山新勝寺）へひとり暮らしの高齢者161人を招待した。 																
ボランティアセンター	9頁～12頁参照（ボランティア活動促進）																
身体、知的障害者対策	<ul style="list-style-type: none"> 車いすの貸出し 日常生活に支障を持つ人々の社会参加を図るとともに、化的な生活を営めるよう、市内に居住する心身障害者（児）や高齢者等、これらを介助、指導する家族、ボランティア、関係機関、団体の役職員等に車いすを貸し出し、支援に努めた。 ○車いす貸し出し年間実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>設置台数</th> <th>申請件数</th> <th>貸出台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアセンター</td> <td>84台</td> <td>296件</td> <td>340台</td> </tr> <tr> <td>流山福祉会館</td> <td>6台</td> <td>4件</td> <td>6台</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>90台</td> <td>300件</td> <td>346台</td> </tr> </tbody> </table>		設置台数	申請件数	貸出台数	ケアセンター	84台	296件	340台	流山福祉会館	6台	4件	6台	合計	90台	300件	346台
	設置台数	申請件数	貸出台数														
ケアセンター	84台	296件	340台														
流山福祉会館	6台	4件	6台														
合計	90台	300件	346台														
広報啓発	5頁参照（広報活動）																
福祉活動	5頁～6頁参照（福祉活動団体支援）																
地域福祉活動	8頁参照（地区社会福祉協議会活動の推進）																
歳末たすけあい運動	<p>低所得者（要保護世帯）、交通遺児世帯等が明るいお正月を迎えられるように、民生委員・児童委員の協力を得て年末に援護金等を届けるとともに、従来から支援している障害者支援施設利用者、福祉施設入所者等に加え歳末たすけあい配分委員会では、子どもに対する支援の拡充について議論され、29年度に引き続き、住民の手作りにより運営されている子ども食堂のネットワークに対して支援金を届けた。</p> <p>※配分内容については下表のとおり</p>																

○歳末たすけあい募金の配分

内容	世帯数等	人数	金額（千円）
要保護世帯	20世帯	36人	810
生活困窮者自立支援機関	1か所		100
市給食サービス利用者（おせち料理）		73人	158
養護老人ホーム入所者		1人	20

障害福祉サービス事業所等	45事業所		1,540
児童養護施設入所児		22人	440
交通遺児		1人	20
子どもに対する支援（子ども食堂ネットワーク）	1共同体		200
ひとり暮らし高齢者日帰り交流事業	1事業		500
福祉だより180号発行費（共同募金特集号）			100
配分経費			15
合 計			3,903

（９）共同募金事業への協力

赤い羽根共同募金は、昭和22年に国民助け合い運動としてスタートして以来、公的政策のみで支えられない分野を民間社会福祉団体等が行う福祉事業で支援するための財源の確保と、募金活動を通じて地域住民の相互の助け合いの精神を普及することを趣旨として、全国的に広く親しまれ定着している。

また、歳末たすけあい募金運動は共同募金運動の一環として、新たな年を迎える時期に地域住民やボランティア・NPO団体、民生委員・児童委員、社会福祉法人、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、高齢者、障害者、子ども、若者、福祉サービスを必要とする人など誰もが地域福祉を支える一員として参加できるさまざまな福祉活動を展開し、孤立することなく自分らしく安心して暮らすことができる福祉のまちづくりへの幅広い理解と参加を図るものである。

本会では、千葉県共同募金会の流山市支会事務局を務め、社会福祉についての住民の理解とたすけあいの精神を高めるとともに、人々の善意による民間社会福祉事業の進展を図るため、共同募金運動を推進した。

（10）介護保険（社会福祉事業）

・訪問介護事業

日常生活に支障のある要支援及び要介護高齢者に対して訪問介護員を派遣し、自宅における身体介護や日常生活の支援に努めた。

また、より良い支援が行なえるように、月1回以上定期的に、職員研修会を実施し、介護技術の向上や必要な知識の習得に努めた。

○訪問介護員派遣状況

区分	訪問介護事業全体	左記のうち総合事業
利用者数	695人	101人
身体介護	2,573時間	61時間
生活援助	2,222時間	411時間
訪問時間合計	4,795時間	472時間
延べ訪問回数	5,288回	491回

○訪問介護員研修実施状況 事業所主催研修 年間48回

定例会のほか、介護実習、新人研修等を開催するとともに、個別指導を随時実施し、職員の介護技術の向上等資質の向上に努めた。

○ターミナル(看取り)ケア実施状況 年間4ケース

○ママ&ベビーヘルプ事業

妊娠期及び産褥期の親子に対して訪問介護員を派遣し、自宅における沐浴、オムツ交換、授乳等の援助や生活支援に努めた。

利用者数	1人
訪問時間数合計	6.5時間
延べ訪問回数	13回

○生活支援サービス事業

当事業所利用中の方で、給付対象外のサービスを必要としている利用者に対して必要な支援を行い、日常生活の支援に努めた。

利用者数	52人
訪問時間数合計	288時間
延べ訪問回数	251回

・通所介護事業（高齢者デイサービス）

要支援・総合事業対象及び要介護者を送迎し、介護保険法のケアプランに沿ったサービスの提供を行い、生活意欲の向上や社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上と併せ、介護者の身体的・精神的な負担の軽減に努めた。

また、平成29年度から開所時間を7時間30分に拡大し、サービスの充実と向上を図った。

地域包括ケアシステムの構築と医療、介護連携構築のための会議、講義に積極的に参加し、職員のより専門的なスキル向上に努めた。

○サービスの種類・内容

項目	内容
①日常動作訓練	音楽・創作的活動・レクリエーション・屋外活動等
②健康指導	検温、脈拍及び血圧チェック・栄養指導
③生活指導・相談	日常生活上の訓練、指導、相談
④給食サービス	栄養士作成の献立による栄養及び身体状況・嗜好を考慮した食事の提供
⑤入浴サービス	一般浴・リフト浴を用意し、安全かつ快適な入浴の提供
⑥機能訓練	機能訓練指導員による心身等の状況に応じた機能の維持・向上訓練

○利用状況

開所日数		306日
利用者延べ人数		5,031人
内 訳	総合事業	157人
	要介護1	1,861人
	要介護2	1,816人
	要介護3	693人
	要介護4	501人
	要介護5	3人
入浴サービス利用者延べ人員		3,242人
給食サービス利用者延べ人員		5,019人
送迎サービス利用者延べ人員		10,038人

○その他

- ・ 住み慣れた地域で安心して自立した生活を送れる様にご自宅と施設を往復する安全、快適な送迎車両を民間企業より寄贈いただいた。

寄贈日	車種	台数
平成30年 10月4日	トヨタハイエースウェルキャブBタイプ4WD	1台

- ・ 江戸川学園おおたかの森専門学校で開催された福祉機器展に初めて参加しブースを設け、日頃の活動状況、紹介パンフレット等を配布した。当会デイサービスで人気の手芸作品(刺子)を通して、流山南高等学校家庭科部と連携することができた。

期日 平成30年8月10日(金)

来場者数 110名

(11) 居宅介護

・ 障害者等訪問介護事業

日常生活に支障のある身体・知的・精神障害者(児)等に対して訪問介護員を派遣し、自宅における身体介護、日常生活の支援及び外出のための支援に努めた。

○訪問介護員派遣状況

利用者数	156人
身体介護時間数	1,261時間
生活援助時間数	473時間
重度訪問時間数	1,207時間
同行援護時間数	110時間
移動支援時間数 (身体介護を伴う)	23時間
(身体を伴わない)	0時間
訪問時間数合計	3,074時間
延べ訪問回数	2,271回

○吸引等特定行為実施状況

人工呼吸器装着の重度の利用者2名に対して、痰の吸引や胃瘻による注入等の特定行為を実施した。

年間延訪問日数 462日

・身体障害者デイサービス事業

流山市からの受託事業として、在宅の身体障害者を送迎し、各種サービスの提供、専門講師によるリハビリ（松戸整形外科より理学療法士、作業療法士を派遣）、音楽療法、木彫り、書道、七宝焼、絵画などを通じ、心身機能の維持・向上、家庭内自立や職場復帰を目指す方の自立と、社会参加を促進し、併せて家族の身体的・精神的な負担の軽減に努めた。

なお、利用者に満足していただけるようデイサービスセンターの廊下に「目安箱」を設置し、広く利用者等から意見を求め、デイサービスの運営の改善に努めた。

また、利用者や介護者にデイサービスでの利用者の様子や行事などを紹介し、デイサービス事業への理解と関心を深めていただけるように、3ヵ月毎に施設だより「フレンズ」を発行した。

なお、平成28年度から土曜日及び祝日も開所し、サービスの充実と向上を図った。

○サービスの種類・内容

項目	内容
①機能訓練	理学療法、作業療法、音楽療法
②創作的活動	木彫り・書道・七宝焼き・作品作り等
③社会適応訓練	パソコン・屋外活動等
④健康指導	検温、脈拍及び血圧チェック・栄養指導
⑤更生相談	福祉、日常生活等の各種相談
⑥給食サービス	栄養士作成の献立による栄養及び身体状況・嗜好を考慮した食事の提供
⑦入浴サービス	一般浴・リフト浴を用意し、安全かつ快適な入浴の提供

○利用状況

開所日数		296日
利用者延べ人員		2,976人
内 訳	区分1(軽度)	1,605人
	区分2(中度)	1,104人
	区分3(重度)	267人
入浴サービス利用者延べ人員		1,130人
給食サービス利用者延べ人員		2,867人
送迎サービス利用者延べ人員		5,591人

(12) 放課後児童健全育成

- ・あすなろ学童クラブ、ひまわり第1学童クラブ及びひまわり第2学童クラブの管理運営

平成24年度から指定管理者として、あすなろ学童クラブ・ひまわり学童クラブの2クラブを管理・経営を行っている。子育て世代の増加に伴い、平成28年度には鱈ヶ崎小学校区にひまわり第2学童クラブを開設し、その学童クラブの管理・経営も行った。

学童クラブは、保護者が就労等で放課後の家庭保育が困難な概ね10歳未満の南流山小学校及び鱈ヶ崎小学校に通学する児童を、保護者が終業後迎えに来るまでの間、学童クラブで保育し、楽しく集団生活を送ることで、保護者が安心して仕事と子育てを両立できるよう努めた。

○サービスの種類・内容

項目	内容
①日常保育	おやつ・室内・外遊び(集団・自由)・宿題・読書 等
②行事	誕生会(毎月)・お楽しみ会・昼食会・遠足 等
③親子行事(父母会と共催)	夏季・冬季に1回ずつ開催

○開設・利用状況(延べ)

		あすなろ学童 クラブ	ひまわり第1 学童クラブ	ひまわり第2 学童クラブ
開設日数		251日	257日	257日
開設時間		1,552時間	1,780時間	1,656時間
児童数 (月延べ/平均)		1,889/157.5人	574/47.8人	765/63.8人
内 訳	1年生	799/66.6人	263/21.9人	355/29.6人
	2年生	645/53.8人	181/15.1人	229/19.1人
	3年生	325/27.1人	130/10.8人	181/15.1人
	4年生	108/9人		
	6年生	12/1人		

○保育時間

平日	授業終了後 ～ 午後9時
土曜日・夏休み等	午前7時30分 ～ 午後9時

(13) 生活困窮者等の支援

・福祉資金の貸付事業

低所得世帯等に対し、資金の貸付と必要な相談援助により、経済的自立と生活意欲の助長をはかり、安定した生活が送れるよう、生活福祉資金（福祉資金・教育支援資金・不動産担保型生活資金・総合支援資金・緊急小口資金・臨時特例つなぎ資金）及び愛の資金（小口貸付資金）の貸付相談及び支援、償還指導に努めた。

特に、生活困窮者（世帯）等に対しては、平成27年4月より施行された生活困窮者自立支援事業と連携し、流山市及び流山市くらしサポートセンター・ユースネット（生活困窮者自立支援事業自立相談機関）、公共職業安定所等と連携した対応を行い、自立支援相談機関の作成する自立支援計画に基づき貸付申請につなぎ、貸付の実施後においても、自立相談支援機関とともに、当該世帯への見守り及び償還指導を行い、生活の安定が図れるように努めた。

○相談内容・件数(平成30年度)

相談内容	件数
生活費	207件
失業	27件
就学・修学費	95件
医療・介護費	9件
不動産担保型生活資金	20件
要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0件
転居費	13件
自己破産・倒産	0件
住宅改修	0件
冠婚葬祭費	1件
事業資金	0件
出産費	3件
障害者自動車購入	4件
福祉用具購入	1件
その他	23件
償還相談	134件
合計	537件

○貸付状況(平成30年度貸付件数)

・生活福祉資金(千葉県社会福祉協議会委託事業)

資金名	申請件数(申請額)	決定件数(決定額)	備考
福祉資金	1件(139,600円)	1件(139,600円)	生活保護受給者エアコン
教育福祉資金	6件(6,670,000円)	6件(6,670,000円)	大学(2)、専門(2)、高校(2)
総合支援資金*	2件(312,828円)	2件(312,828円)	生活支援費(1) 一時生活支援費(1)
緊急小口資金*	3件(300,000円)	3件(300,000円)	
臨時特例 つなぎ資金*	0件(0円)	0件(0円)	
合計	12件(7,422,428円)	12件(7,422,428円)	
不動産担保型 生活資金	0件(0円)	0件(0円)	

*印は生活困窮者自立支援事業との連携対応を要する貸付資金

・愛の資金（本会独自事業・小口貸付資金）

件数	金額
102件	2,003,982円

・法外援護

件数	金額
5件	3,000円

・災害見舞金

区分	件数	金額
火災	3件	50,000円
死亡・重傷	0件	0円
床上浸水	0件	0円
合計	3件	50,000円

（14）施設管理

・流山福祉会館の管理運営

○開館日・利用時間

＜開館日＞ 年末年始（12月29日～1月3日）を除く毎日

＜利用時間＞ 午前9時～午後10時まで

利用者の利用に支障のないように午前8時30分に開館し、午後5時以降の利用がない場合は、午後5時に閉館した。また、夜間（午後5時以降）の運営・管理にあたっては、市民の利便に供するよう柔軟な対応と経費節減に努めた。

利用件数・人数

場所	利用可能 日数	午前		午後		夜間		件数 合計	利用者 合計
		件数	人数	件数	人数	件数	人数		
大広間	359	221	2,662	283	3,559	50	823	554	7,044
和室	359	319	3,588	330	3,263	12	86	661	6,937
会議室	359	467	5,137	702	8,694	59	314	1,228	14,145
音楽室	359	271	1,905	283	1,436	59	232	613	3,573
計	1,436	1,278	13,292	1,598	16,952	180	1,455	3,056	31,669

○入浴施設の開設日・利用時間

＜開設日＞ 週4日（火・水・金・日曜日）

＜利用時間＞ 午前10時～午後3時まで

特に高齢者の利用が多いため、受付業務等を利用者の利便性や特性に配慮して、利用者の希望や要望に適うよう努めた。特に、入浴施設の運営には、利用心得等を掲示し、ゆず湯等季節を感じる工夫を凝らし、常に浴室及び休憩室を清潔に保ち、安心・安全に利用できるよう努めた。

入浴者数（年間） 5, 338人

○施設の機能を生かした事業等

利用者から施設利用に関する希望を徴する等して、利便向上に資するよう配慮し、より有効な利用に供するよう努めた。また、地域の自治会等の恒例的な行事の使用については、年間予定の事前調整を行うなど地域団体等の利用に配慮した。

○自主事業について

① 江戸川堤で第42回流山花火大会が行われ、当館では花火大会実行委員会と連携して全室を夜10時まで開放し、観覧者のトイレや休憩、授乳などの場としてご利用いただくことで市内外の方々に喜ばれた。

期 日 平成30年8月25日

内 容 第42回流山花火大会休憩所

② 新たな年を迎える時期に、支援を必要とする方たちが地域で安心して暮らすことができるよう、福祉活動やコミュニティ活動の場として、近隣の方々に身近な憩いの施設として親しまれてきた当館を会場に、歳末たすけあい募金チャリティコンサートを実施した。

期 日 平成30年12月15日

内 容 「歳末たすけあいチャリティイベント」

～のこぎり演奏と落語によるひと足早いクリスマス～

来場者数 37人

募金額 21, 100円

③ お風呂をご利用の皆様には季節感を味わっていただく「ゆず湯」を実施した。

期 日 平成30年12月12日

内 容 ゆず湯

利用者数 28人

- ④ 車いすを借りに来られる方の利便性の向上を図り、当館においても車いすの貸し出しを始めた。

期 間 通年

貸出台数 6台（4件）

○各設備の維持管理

各設備の保守点検等は、関係法令及び各ガイドラインを遵守し、計画的に実施した。

建物の保守管理については、随時館内巡視と定期的な施設設備の点検を実施し、設備の不具合及び故障箇所の早期発見と速やかな修理・復旧に努めた。

また、年間を通じて施設敷地内の除草や花木の手入れなどの環境の整備・管理に努めた。

○修繕等

施設の老朽化に伴い、1階和室の畳の表替えや、浴室サーモシャワー水栓の取付けや湯沸室の流し台の交換等が発生した。

また、施設の簡易な補修や修理等は、職員が手がけるなど経費の節減に努めた。

・流山市地域福祉センター（流山市ケアセンター）の管理運営

○開館日・利用時間

<開館日> 月曜日から金曜日（ただし、祝日・年末年始（12月29日～1月3日）は除く）。

ただし、高齢者及び身体障害者デイサービスについては、土曜日と祝日も開設した。

<利用時間> 午前9時～午後5時まで。ただし、利用内容によっては午後7時まで対応した。

利用件数・人数

場 所	利用可能 日数	午 前		午 後		夜 間		件数 合計	利用者 合 計
		件数	人数	件数	人数	件数	人数		
第1研修室	244	125	1,702	156	2,169	0	0	281	3,871
第2研修室	244	78	852	114	1,296	0	0	192	2,148
第3研修室	244	110	1,204	136	1,599	0	0	246	2,803
第4研修室	244	122	412	132	409	0	0	254	821
第5研修室	244	156	787	178	935	0	0	334	1,722
計	1,220	591	4,957	716	6,408	0	0	1,307	11,365

○ 施設の機能を生かした事業等

高齢者デイサービスセンター、身体障害者デイサービスセンター、地域包括支援センター、ボランティアセンター、ホームヘルプステーション等を設置、運営し、これらの市内事業関係者の研修や会議等も実施した。

また、高齢者及び身体障害者デイサービスセンターで大学生（教員免許資格取得者）を受け入れ、福祉施設における教育実習に協力した。

○ 自主事業について

主な自主事業として、各種ボランティア養成講座等の開催や車いす、点字器等の福祉機器の貸出を行ったほか、福祉団体などの協力を得て「流山市ケアセンターまつり」を初開催した。

① ボランティア養成講座等の開催（9頁～14頁参照）

② 福祉機器等の貸出件数

◇点字器、アイマスク、白杖、高齢者疑似体験セット、ワイヤレスマイクセット（ハンド・ピン）、ライト等（11頁参照）

◇車いす 期 間 通年

貸出台数 340台（296件）

※ 休館日に対応するため、30年度から流山福祉会館でも車いすの貸し出しを始めた。（29頁参照）

③ 心配ごと相談所の開設（13頁参照）

④ 成年後見制度相談所の開設（13頁参照）

⑤ 流山市ケアセンターまつりの開催

福祉団体などの協力を得て、職員手づくりの「流山市ケアセンターまつり」を初めて開催し、当館の役割や流山市社会福祉協議会活動への理解を深めました。

期 日 平成30年10月28日

内 容 流山市ケアセンターまつり

来場者数 200人

○ 各設備の維持管理

各施設、設備の保守点検等については、関係法令及び各種ガイドラインに則して計画的に実施し、施設利用者の利便性・安全性及び管理上、トイレ水漏れなど速やかに修理・復旧に努めた。

また、施設敷地内の樹木の剪定及び除草などを定期的を実施し、環境に

配慮した施設の維持管理に努めた。

○ 修繕等

施設の老朽化に伴い、第1研修室と第2研修室の間仕切りパネル開閉不具合の修理、壁紙の張り替え、天井の塗装、ブラインドカーテン破損による取り換え等を行いました。また、利用者の意見を反映してトイレ用擬音装置を取り付けた。

また、軽易な修繕や花壇の雑草防止シート張りなどは、職員が行い経費の節減に努めた。

(15) 基金の運営

・ 災害対策基金

災害対策基本法に規定する災害の発生時に備えるための資金を整理・設置し、災害発生時に備えて必要な資金の迅速かつ必要に応じた対応を可能にする目的として、従来の災害対策積立金から「災害対策基金」として改めて設置し、昨今の大震災の多発、大規模自然災害の状況などを勘案し有事に備えて、寄付金や事業利益を元に資金造成及び管理を行うこととした。資金確保のため、基金から生ずる利息の確保に努めた。

・ 施設管理修繕基金

本会が管理する地域福祉センターや流山福社会館、流山こまぎ園等、施設の経年劣化に伴う修繕費や施設改修費等の必要な資金を確保する目的として、従来の社会福祉振興積立金を原資に改めて設置し、寄付金や事業利益を元に資金造成及び管理を行うこととした。修繕等費用の確保のため、基金から生ずる利息の確保に努めた。

・ 財政調整積立基金

年度間の財源調整を行い本会の財政の健全性の確保を目的として、これまでの財政調整積立金から「財政調整積立基金」として改めて設置し、寄付金や事業利益を基に資金造成及び管理を行うこととした。各事業の実施のため、本基金の取り崩し及び基金から生ずる利息の確保に努めた。

(16) 就労支援

・指定障害者福祉サービス事業所（就労継続支援B型）流山こまぎ園事業

障害のある人の働く場として、生産活動や社会参加活動等の機会を提供し、就労のための知識・能力向上のため必要な訓練を行った。

平成30年度は、利用者13人で利用者の増減はなかった。買物かご洗浄の受託事業は予算どおりに推移しており、利用者工賃を平均額30,282円支給し、春から初冬にかけては菜園活動（畑作業）を実施するなど活動内容の一層の充実に努めた。

さらに、社会福祉協議会が設置運営する事業所であるとの特性を踏まえ、障害の有無にかかわらず相互に尊重し合える共生できる地域社会づくりに向けて、八木北地区社会福祉協議会との連携・協働による共催事業の実施や収穫した野菜の販売、芋ほり交流会などをとおして、地域交流を促進した。

このように、当事業所の効果的な運営を確保するとともに、利用者の自立支援と社会参加の促進を図り、就労継続支援事業の推進に努めた。

○業務内容

項目	内容
生産活動	買物かごの洗浄作業
文化教養活動	開所10周年記念大会、和太鼓、日帰り旅行ほか
健康指導	健康診断の実施、インフルエンザワクチン接種料の助成

○利用状況

年間開所日数	243日
利用実人員	13人
利用延べ人数	3,054人

○作業実績

内容	個数
買物かご洗浄個数	1,135,070個
1日当たり平均洗浄個数	4,671個

○流山こまぎ園開所10周年記念大会実施

開所満10年の節目を機に、流山こまぎ園の事業に貢献を重ねてこられた方々を表彰し、感謝の意を伝える機会として、また利用者の活動状況や成長を見て頂く機会として開所10周年記念大会を開催した。

期 日 平成30年12月15日
 場 所 流山こまぎ園
 出席者 56名
 感謝状表彰者 3名、3団体

○作業環境の改善

項 目	実施時期
ユニットシャワーの設置	平成30年 7月14日
洗浄室に壁掛け式扇風機4台取付け	平成30年 7月26日
かご用物置増設	平成30年11月 6日

2 公益事業

介護保険

・居宅介護支援

要支援者及び要介護者が適切な保健、医療サービス及び福祉サービスを総合的かつ効率的に受けられるよう配慮し、関係市町村、地域の保健・医療サービス及び福祉サービス事業者等と連携を図りつつ、総合的なケアマネジメントに努めた。

居宅介護支援延実施件数

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
805件	664件	300件	218件	141件	2,128件

介護予防居宅介護支援延実績件数

要支援1	要支援2	総合事業	合 計
16件	73件	95件	184件

・介護認定訪問調査受託事業

流山市から介護認定訪問調査業務を受託し、介護保険法に基づく要介護認定申請者に対して、関係法令を遵守し、公正中立な立場で調査業務を実施した。

介護認定訪問調査実施件数（年間） 1,274件

・流山市南部地域包括支援センター受託運営事業

(1) 総合相談支援業務

担当地域に住む高齢者に関する様々な相談をすべて受け止め、適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローするとともに、必要に応じて継続支援している。多種多様なケース対応のため、日頃より関係機関との連携を密にしている。

相談内容別件数

	介護・日常生活	サービスの利用	医療	所得・家庭生活	苦情	虐待等権利擁護	成年後見	介護予防プラン	合計
実数	1,401	450	65	11	3	27	12	447	2,416
延件数	4,056	2,029	294	38	5	165	71	1,249	7,907

地域別相談件数

	市野谷	三輪野山	加	平和台	流山	西平井	鱈ヶ崎	南流山	木	他地域	合計
実数	113	155	350	384	268	157	374	524	37	54	2,416
延件数	339	513	1,274	1,235	858	511	1,239	1,744	97	97	7,907

- 地域連携推進会議を年間で4回開催し、多職種との顔合わせの場を設けて、ネットワークの強化を図った。

回数	期 日	場 所	出席者数
1回目	平成30年 5月31日	地域福祉センター	15人
2回目	9月28日		15人
3回目	11月30日		11人
4回目	平成31年 2月26日		11人
<p><会議事項></p> <p>共通テーマ「地域包括ケアシステムの構築の基盤づくり」</p> <p>[1回目]・住民型サービス100歳体操について</p> <p>[2回目]・高齢者の行方不明が珍しくない見守り、支え合いについて</p> <p>[3回目]・社会資源の情報提供。それをもとに活動について考える。</p> <p>[4回目]・日常生活自立支援制度について</p>			

(2) 権利擁護業務

高齢者の適切な権利行使や権利侵害からの救済及び侵害防止のための支援を行い、また、地域支援事業として周知活動を実施した。

○ 高齢者の権利擁護

内 容	件 数
成年後見制度相談	11件（うち市長申し立て2件）
虐待通報	受理 3件（うち虐待ありと判断1件）

○ 認知症高齢者支援

内 容	開催回数	参加者数
認知症家族のつどい	6回	45人
認知症サポーター養成講座	20回	801人
<内訳> 南流山自治会班長会	1回	94人
介護支援サポーター養成講座	2回	17人
流山市役所職員	1回	45人
流山小学校5年生・教員	1回	162人
流山北小学校3年生・教員	1回	121人
南部中学校1年生・教員	7回	266人
ハイムガーデン南流山（サービス付き 高齢者住宅）職員	1回	15人
ケアパートナー流山（介護事業所）職員	1回	8人
地域住民（会場：地域福祉センター）	2回	34人
イトーヨーカ堂職員	1回	14人
生活支援サービス従事者	1回	13人
富国生命相互保険会社流山営業所職員	1回	12人
認知症サポーターフォローアップ教室	2回	33人

(3) 介護予防ケアマネジメント業務

介護保険の基本理念に基づき「自立支援」を目的とし、生活上のさまざまな課題を抱える高齢者に対して適切な支援を行うことにより、要支援・要介護の予防やその重症化の予防、改善を図り、早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援した。

○ 介護保険認定者区分別者数（延べ人数）

	更 新	新 規	区分変更	合 計
要支援	137人	157人	4人	298人
非該当	3人	4人	0人	7人
合 計	140人	161人	4人	305人

○介護予防・ケアマネジメント実績数（延べ件数）

包括	683件
委託	1,796件
合計	2,479件

（４）介護予防の普及・啓発

○出前講座

訪問先	件数等	内 容
単位老人クラブ	2クラブ	転倒予防、健康体操、消費者被害防止、 認知症予防、口腔体操、介護保険講座 等
ふれあいの家	2か所	
自治会	6か所	
地区社会福祉協議会	4か所	

（５）包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

主な業務	件数等	内 容
介護支援専門員への個別支援	62件	虐待、成年後見、所得、認知症、精神障害等の困難ケース等
南部地域ケアマネ交流会	5回 216人	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援との連携の回り方について ・加算等に関する勉強会（デイ、デイケア、入退院等） ・地域ケア会議（住みやすい地域づくりを目指す会議） ・事例検討会 ・民生委員との交流会
地域ケア会議	6回	高齢者個人が抱える課題を、医療や介護等の専門職を含む多職種が協働して解決のために意見交換を行うことで、利用者が、住み慣れた地域で自立した尊厳のある生活を送れるよう支援する。

（６）その他

- ・ホームページの更新、チラシ等の配布により地域へのPRを継続して行った。
- ・資源マップを小学校区地域ごとに取りまとめ、介護、介護予防等の地域の情報を整理し、随時更新した。

3 収益事業

・自動販売機設置

飲料水の売り上げの収益の一部が社会福祉協議会の収益となり、福祉活動を通して市民に還元することができる社会貢献型自動販売機の設置に取り組んでいる。

市内の公共施設にご協力をいただき、平成31年3月末現在で18か所、20台の社会貢献型自動販売機を置かせていただいている。（コミュニティプラザとキッコーマンアリーナ、ケアセンターについては、災害発生時には本体に残っている飲料が無償で提供される災害ベンダー機能付き。）

また、契約更新時に電気使用量を抑えるために、より消費電力の少ない自動販売機に切り替える等、ランニングコストの低減に努めた。

○自動販売機設置状況

場 所		災害ベン ダー機能	台 数
江戸川台福祉会館			1台
思井福祉会館			1台
流山福祉会館			1台
西深井福祉会館			1台
東深井福祉会館			1台
平和台福祉会館			1台
南流山福祉会館			2台
向小金福祉会館			1台
名都借福祉会館			1台
キッコーマンアリーナ		○	2台
コミュニティプラザ		○	1台
北部公民館			1台
森の図書館			1台
クリーンセンター	リサイクル館		1台
	リサイクルプラザ館1階		1台
	談話室		1台
ケアセンター4階		○	1台
流山こまぎ園			1台
合 計			20台